

抗疲労レンズの効果 バス運転手で実証

と大
市大
阪市
大

市内中小企業が開発した抗疲労レンズ（偏光サングラス）の効果を実証します。大阪市と大阪市立大学は11日、運転疲労に対する抗疲労レンズの効果の実証実験を14日から29日まで行うと発表

した。タレックス光学工業（大阪市生野区）が開発した「ザ・レンズTAL EX」を市営バスの運転手に着用してもらい、着用しない運転手との間で疲労度の違いを調べる。

モーターになる市営バスの運転手は着用、非着用約10人ずつの合計20人程度。年齢は40～50代の男性で、日中の強い日差しや地面からの照り返しがある時間帯に運転してもらい、疲労感のアンケートを実施する。TAL

EXは厚さ0・03ミリの極薄偏光フィルムをレンズ2枚ではさんだ構造で、このフィルムが照り返しや反射光をカットし目の疲労を和らげる。アンケート分析は市立大

大学院医学研究科の井上正康教授の指導で行う。大阪市は大阪産業創造

館を通じて「抗疲労・いやし」分野の商品開発に取り組む市内中小を支援

しており、タレックス光学工業はそのメンバーの1社。